

6つの共通項目・具体的な方策へ

新委員の就任について

活動報告

自分の立場でできる

他の機関と連携・協働が出来る

仕組みやルールが変えられる

ありたい姿

- 子どもたちが学校等でやりたいことを実現できている
- 教員が学校等でやりたいことを実現できている
- 多様性の時代に即した入試制度になっている
- 様々な機関が連携・協働している
- 小規模校ならではの特色ある学びが実現できている
- 学びの場を信州全体で支えている

大学・研究機関
探究科
専修
体けん
指導要領

PBL・探究 総合70h
基本も大土刀に!
石井修の場も
校長裁量も
先生たちが
まず体けんできる

① 時間創出
45分→40分
うまれた時間で
やりたいことを!

時代・社会も変わってきている
授業時間
先生全員が学ぶ!
探究 先生全員が学ぶ!
先生全員が学ぶ!

業務改善
時間L
自然発生的
かたちの計画
いよいよに感じながら
学んでいく

地域の人に
学校に来てもらう
学校の先生も
先生も

学校と社会はつながっている

探究と進路
得点をとるには工夫がいる
試験の形式も多様に
(入試)(すいせん)

地域資源(内外)
コーディネーターする中間支援組織
となりの学校に学びに行ける!

伴走する専門家チーム
育成
年間継続
予算も
(仮)学校改革
支援センター
学びの石井修・プログラム
(ex.ラニングセンターのように)

3/7・5/3 県民意見交換会
5/8 地域版
信州学び円卓会議

学びが
変わってきた!!
魅力的
本当は
そこまで
かちかち
ではない
安心して
できるように
管理職の
研修場
マネジメント
校長の
異年齢
裁量
権限と
支援
財源

行政だけでなく
民間・教育外の方をも
限られたリソースの中
広域化へ!
単体だと限界
ゆるやかなネットワークへ
(自律的)
行政の
学校だけに任せられない
当事者意識
まわつかう

再定義: 学校って何?
先生の役割りって?
学校のキャリアに胸を張る
自分の
権限or連携(中外)
この子のために
とって
(学年年齢主義)
新たな学びのサポート
教員の負担感
考え方

ボランティアに
高校生が参加?
興味
外
学部の
相談
対話の場が必要
(協議会など)
合意形成
民間
行政
学校
それぞれの
役割りをもつ
子どもを支援
△学校だけ

それぞれ
目指す方向
は異なる
指導要領
についても
(文科省から)
先生たちが
いられている感

最善
は? (特別校も)
異年齢
裁量
権限と
支援
財源

横
縦

展開

リフトへの
投資